

平成 20 年 10 月 7 日

各位

会社名 アンジェス MG 株式会社
代表者 代表取締役社長 山田 英
(コード番号 4563 東証マザーズ)
問い合わせ先 経営企画部長 林 毅俊
電話番号 03-5730-2480

新型インフルエンザ DNA ワクチン導入に関する LOI 締結について

当社は、この度、米国 Vical Inc.との間で LOI (Letter of Intent) を締結し、新型インフルエンザ DNA ワクチンの国内での開発販売権を取得する方向で検討を進めることに合意いたしました。

今後、当社は、同ワクチンに対する適切なデューデリジエンスを行い、両社間で最終的な契約条件を交渉し決定する予定です。

現在、世界各地において鳥インフルエンザが発生しております。それに伴い、鳥インフルエンザウイルスが変異を起こしヒトへの感染性を有した新型インフルエンザウイルスの発生する可能性が示唆されております。すなわち、ヒトにはこの新型ウイルスに対する免疫がないため、ウイルスが次々にヒトに感染、伝播し世界的な大流行(パンデミック)となり大きな健康被害とこれに伴う社会的影響が懸念されています。厚生労働省による新型インフルエンザの被害想定では、国内患者数は 1300~2500 万人、死亡者数は 17~64 万人とされています。

一方、新型インフルエンザに対するワクチン開発については、現時点で新型インフルエンザウイルスが存在しないことから、その発生前には製造することができません。したがって、パンデミック発生時に使用するワクチンについては、新型インフルエンザが発生し、ウイルスが同定されてから、速やかにかつ大量にワクチンを製造する技術が重要と考えられています。

DNA ワクチンは、ウイルスの同定から 6-8 週間で製造することができます。Vical 社のパンデミックインフルエンザ DNA ワクチンは、6ヶ月程度の期間を必要とする従来型のワクチンと比較して製造期間の大幅な短縮が図れるのが特徴です。また、製造されたワクチンの備蓄期間も非常に長く 2 年以上は安定ということがわかっており、今後のプレパンデミックインフルエンザ対応にも有益な備蓄ワクチンになる可能性があります。更に、米国で実施された第 I 相臨床試験の初期成績においては、安全性が確認されると共に、H5N1 亜型インフルエンザウイルスに対する抗体産生が認められています*1。

*1 Vical 社の 2008 年 7 月 17 日のプレスリリースによりますと、H5 に対する抗体産生の指標である HI titers では、高用量群の最大 67%において、少なくとも 40 以上、ベースラインから4倍以上が認められています。

< ご参考 >

－ 会社概要 －

社名： Vical Inc.

所在地 :10390 Pacific Center Court, San Diego, CA 92121,USA

代表者 :President and CEO Vijay B.Samant

設立 : 1987 年

従業員数 :154 名(2007 年 12 月末現在)

事業内容 :非ウイルス系の遺伝子投与技術に基づく遺伝子医薬開発
(感染症や癌に対する DNA ワクチンの開発などを含む)

以上